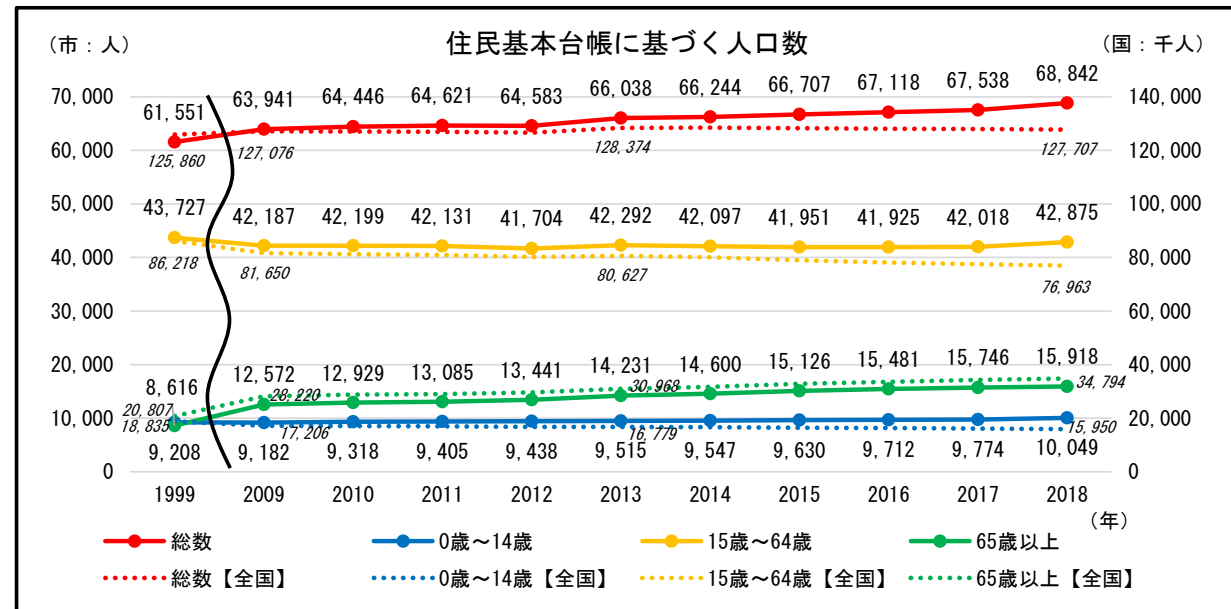


清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況（平成29年度）等について

1 清須市の人口の動向

(1) 人口数の推移

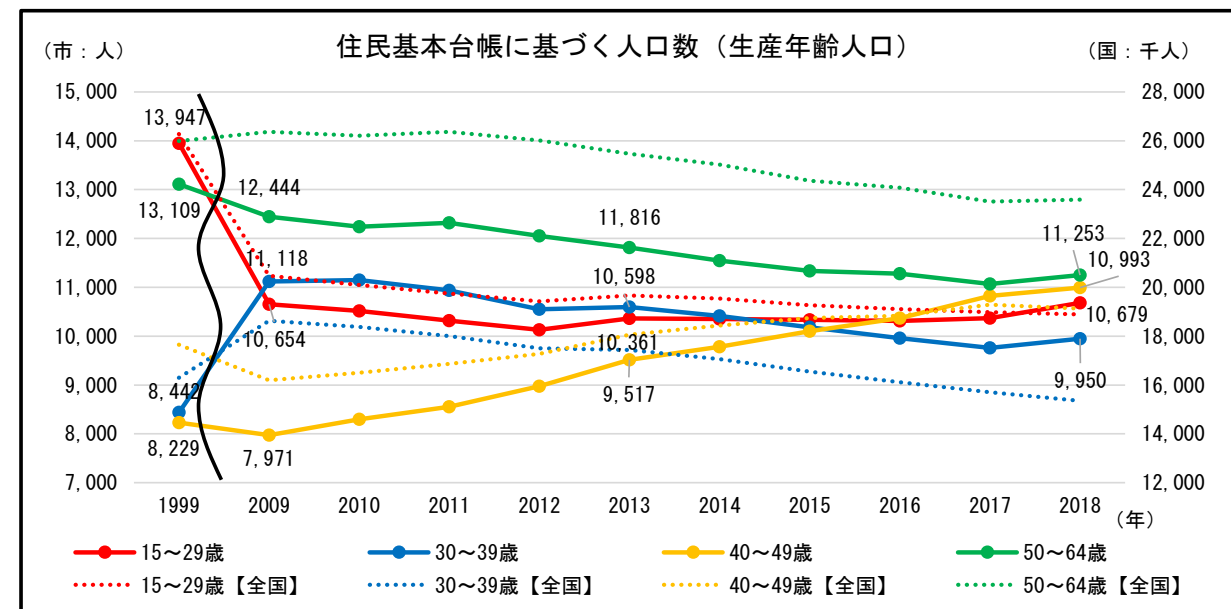
清須市と全国の住民基本台帳に基づく人口数の推移は次のとおり。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」※2013年までは3月31日、2014年からは1月1日時点。住基法の改正に伴い、2013年以降は外国人住民を含む数値。

- 住民基本台帳に基づく人口数は、一貫して増加基調で推移。2009（平成21）年時点と比較すると、2018（平成30）年には65歳以上の老年人口が26.6%（3,346人）増と大きく増加しており、15歳未満の年少人口は9.4%（867人）増、15歳以上65歳未満の生産年齢人口は1.6%（688人）増となっている。

人口数のうち、15歳以上65歳未満の生産年齢人口の推移は次のとおり。

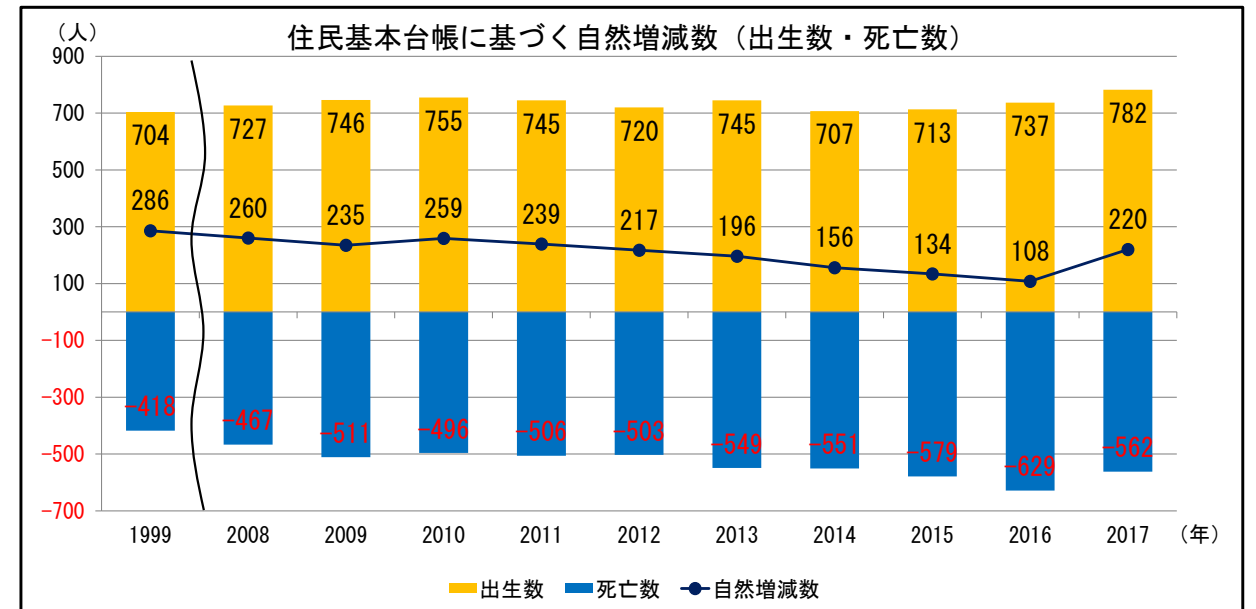


出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」※2013年までは3月31日、2014年からは1月1日時点。住基法の改正に伴い、2013年以降は外国人住民を含む数値。

- 生産年齢人口の推移を年齢別に見ると、2009（平成21）年以降、40歳代は増加傾向、50～64歳は減少傾向にあり、30歳代までの若い世代は、概ね人口数を維持している。

(2) 自然増減数・社会増減数の推移

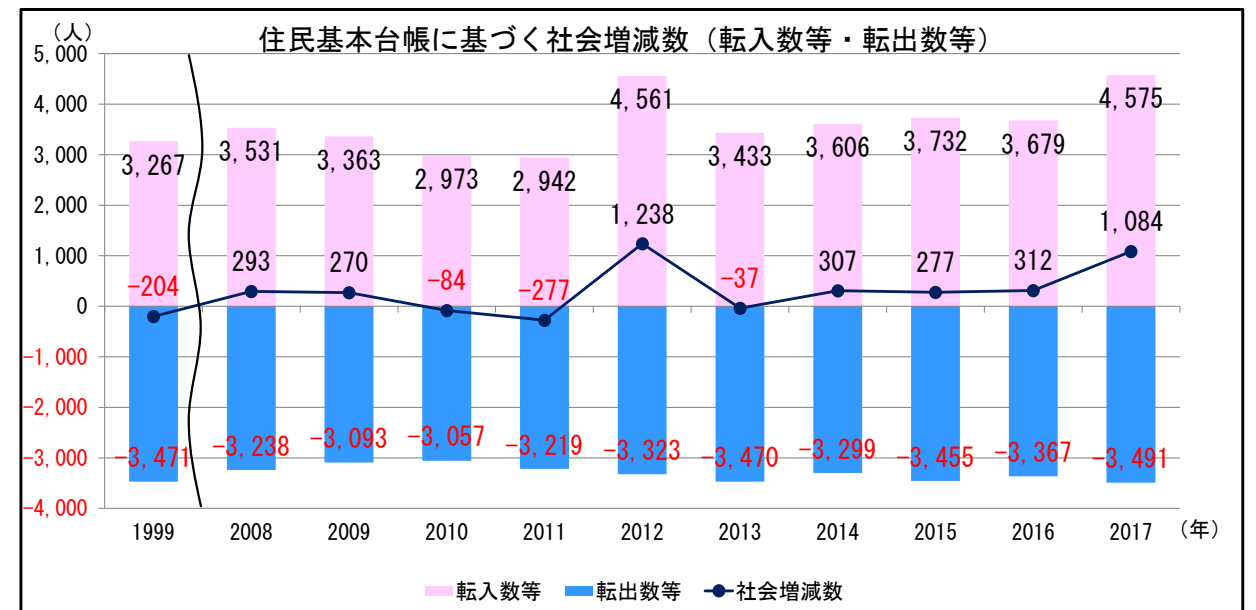
清須市の住民基本台帳に基づく自然増減数（出生数・死亡数）の推移は次のとおり。



出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」※2013年までは3月31日、2014年からは1月1日時点。住基法の改正に伴い、2012年以降は外国人住民を含む数値。

- 住民基本台帳に基づく自然増減数は、一貫して増加を維持している。出生数は、30歳代までの若い世代の人口数を維持していることもあり、一貫して700人台を維持している。また、死亡数は、老年人口の増加に伴って、増加傾向にある。

清須市の住民基本台帳に基づく社会増減数（転入数等・転出数等）の推移は次のとおり。



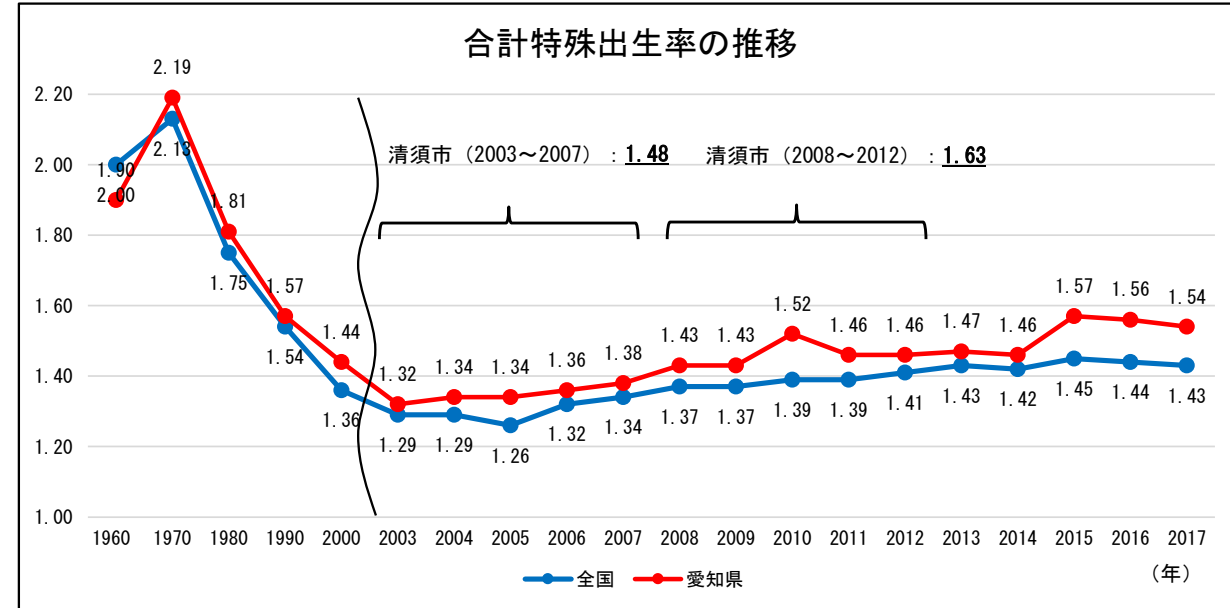
出典：総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数調査」※2013年までは3月31日、2014年からは1月1日時点。住基法の改正に伴い、2012年以降は外国人住民を含む数値。

- 住民基本台帳に基づく社会増減数は、近年増加傾向にある。2012（平成24）年の増加は、改正住基法の施行（外国人住民が住基制度の適用対象）等に伴う影響（+1,229人）によるものだが、2017（平成29）年は、三菱社宅の建設に伴って、転入数が大きく増加している。

(3) 合計特殊出生率の推移

清須市と全国・愛知県の合計特殊出生率（※）の推移は次のとおり。

※「15歳から49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもの」で、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する。期間合計特殊出生率とコーホート合計特殊出生率があるが、一般的には期間合計特殊出生率が用いられている。

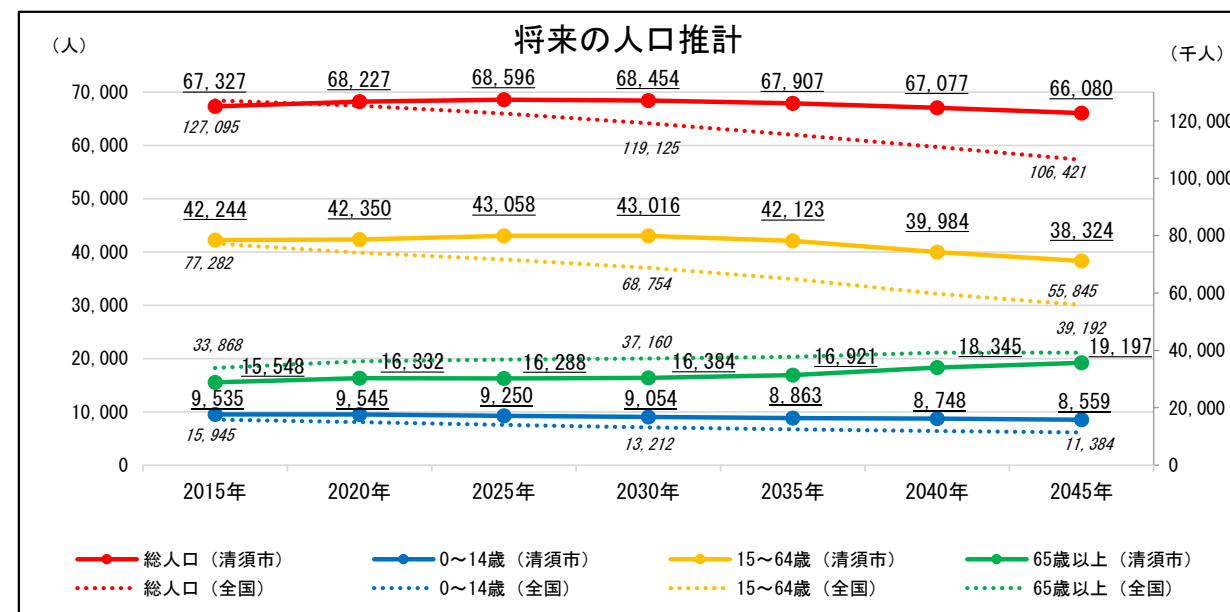


出典：厚生労働省「人口動態調査」「人口動態保健所・市区町村別統計」

- 清須市における合計特殊出生率は、全国及び愛知県の平均値と比較すると高い水準を維持している。

(4) 人口の推計

国立社会保障・人口問題研究所が推計した、2045（平成 57）年までの出生中位・死亡中位仮定による人口は次のとおり。



出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成 29（2017）年推計）」「日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）」

- 日本の総人口は 2045（平成 57）年には 106,421 千人となり、2015（平成 27）年時点と比較して 16.3%減少することが見込まれる。
- また、年齢 3 区分別の人口は、2045（平成 57）年にかけて、年少人口は 28.6%の減少、生産年齢人口は 27.7%の減少と大きく減少する一方、老年人口は 2042（平成 54）年にピーク（39,352 千人）を迎えるまで一貫して増加し、15.7%の増加となる見込み。
- 一方、清須市の総人口は、2045（平成 57）年には 66,080 人となり、2015（平成 27）年時点と比較して 1.9%減少することが見込まれるが、全国状況から見ると減少は緩やかである。
- 年齢 3 区分別の人口は、全国状況から見ると生産年齢人口の減少は緩やかだが、構成比については、2015（平成 27）年時点に年少人口 14.2%、生産年齢人口 62.7%、老年人口 23.1%であった構成比が、2045（平成 57）年時点には年少人口 13.0%、生産年齢人口 58.0%、老年人口 29.0%となり、老年人口の構成比が大きく増加する見込み。

2 清須市人口ビジョン及び清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略

(1) 清須市人口ビジョン

- 清須市の人口の現状を分析し、人口に関する市民の認識を共有し、今後の目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示すもの（対象期間：2060（平成 72）年）。
- 「低調な観光・交流人口」、「若年層の人口流出・定住化」、「高齢化の進展」といった清須市の人口動向に関する課題を踏まえて、次のとおり人口に関して目指すべき将来の方向を設定。

【清須市の人口に関して目指すべき将来の方向】

方向性①	地域資源を生かして地域の活力を高める
方向性②	若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
方向性③	シニア世代が元気でアクティブに暮らせる地域をつくる
方向性④	安全・安心で快適に暮らせる地域をつくる

(2) 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略

- 「清須市人口ビジョン」で提示する人口に関する目指すべき将来の方向の実現に向けて、清須市が有する特性や抱える課題を踏まえて、平成 28 年度～平成 31 年度までの 4 年間の基本目標、施策の基本的方向及び具体的な施策をまとめたもの。
- 基本目標ごとに数値目標を設定するとともに、具体的な施策ごとに、施策の効果を客観的に検証できるようにするため、重要業績評価指標（KPI）を設定。

【清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標】

基本目標①	地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる
基本目標②	若い世代が子育てしやすいまちをつくる
基本目標③	シニア世代が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる
基本目標④	安全・安心で快適に暮らせるまちをつくる

3 清須市まち・ひと・しごと創生総合戦略の取組状況（平成29年度）について

基本目標① 地域資源とシビックプライドを核として活力あるまちをつくる

本市が有する歴史・自然を中心とする地域資源を積極的に活用するとともに、シビックプライドの醸成と、その牽引役となる人材の育成や活躍を促進することを通じて、地域の活力を高めるとともに、魅力発信の取組を推進し、交流人口の拡大を図る。

〔数値目標の状況〕

数値目標	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
休日の滞在人口率の向上	1.94倍 (平成26年)	—	2.2倍 (平成31年度)	—
	経済産業省と内閣官房（まち・ひと・しごと創生本部事務局）が提供する地域経済分析システム（RESAS）の提供データに変更があり、計画策定時と同様のデータが取れないため、計画策定時と同様の考え方により次のとおり基準値・目標値を設定し、検証を実施する。			
	87.2% (平成27年)	88.5% (平成29年度) ※4月～1月	92.4% (平成31年度)	C やや目標達成困難
数値目標の考え方	県内他市町村と比較して低い水準にある、人口に対する休日14時時点の滞在人口割合の年間平均値を、平日並までの向上を目指す。			
数値目標に対する評価	15歳以上80歳未満の平成27年国勢調査人口53,217人に対して、14時時点の月平均滞在人口の平成29年度（4月～1月）の平均人数は平日が49,309人（92.7%）、休日は47,080人（88.5%）となっている。6月は「尾張西枇杷島まつり」の開催等に伴い、48,138人（90.5%）と高くなっているが、他の月は80%後半の人数に留まっている。目標の達成には、年間を通じた恒常的な交流人口の拡大が必要であり、現時点では目標の達成は難しいが、引き続き清洲城及び清洲貝殻山貝塚資料館への誘客促進や観光情報発信の強化等に努めていく。			

〔施策の基本的な方向〕

- 清洲城や3本の川（庄内川・新川・五条川）が有する豊かな水辺環境等の積極的な活用を図る。
- シビックプライドの醸成と、その牽引役となる人材の育成や活躍を促進するとともに、地域住民を核とした地域の活力向上及び魅力発信に向けた仕組みの構築を進める。
- 名古屋駅から至近の距離にある本市の特性を生かして、ショートトリップ観光やインバウンド（訪日外国人旅行）観光を促進するため、観光アクセスの充実や、観光情報発信力の強化に取り組む。
- 地域における創業者を支援し、地域の活性化、雇用の確保を目指す。

〔KPIの状況〕

■施策① 歴史・自然を中心とする地域資源の積極的な活用

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
清洲城及び清洲貝殻山貝塚資料館の合計入場者数	85,204人 (平成27年)	82,556人 (平成29年度)	120,000人 (平成31年度)	D 目標達成困難

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
ふるさと納税による寄附件数	900件 (28年度当初予算)	2,565件 (平成29年度)	2,700件 (平成31年度)	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策② シビックプライドの醸成と人材の育成

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
清須学講座の累計受講者数	— (平成28年度事業開始)	134人 (平成29年度)	160人 (平成31年度)	B 目標達成に向けて順調に推移
清須マイスターの累計認定者数	— (平成28年度事業開始)	26人 (平成29年度)	40人 (平成31年度)	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策③ 観光アクセスの充実

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
あしがるバスのバス停「清洲城」の乗降者数	227人 (平成27年)	291人 (平成29年度)	500人 (平成31年度)	C やや目標達成困難
「きよすあしがるサイクル」の1日あたりの利用者数	2.8人 (平成27年)	2.1人 (平成29年度)	3.8人 (平成31年度)	D 目標達成困難

■施策④ 観光情報発信力の強化

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
清洲城及び清洲ふるさとの館における「kiyosu Free Wi-Fi」のアクセス件数	131件 (平成27年) ※10月～12月	1,680件 (平成29年度)	5,000件 (平成31年度)	D 目標達成困難
清洲城の外国人入場者数	— (未集計)	2,187人 (平成29年度)	3,500人 (平成31年度)	C やや目標達成困難

■施策⑤ 創業支援の促進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
平成28年度中に「創業支援事業計画」を策定	—	平成28年5月策定（北名古屋市・豊山町と共同で国に認定申請の上、認定。）	平成28年度中に策定	A (概ね)目標を達成

基本目標② 若い世代が子育てしやすいまちをつくる

若い世代にとって暮らしやすく、安心できる地域づくりに向けて、安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整備する。

〔数値目標の状況〕

数値目標	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
年間出生数の現状維持	700人 (平成18~27年までの10年間における年間出生数の平均値)	795人 (平成29年度)	毎年度700人以上の出生数を維持	B 目標達成に向けて順調に推移
数値目標の考え方	本市の合計特殊出生率は全国平均や愛知県平均と比較して高い水準にあるため、現状の年間出生数の水準を引き続き維持することを目指す。			
数値目標に対する評価	出生数は、平成28年度741人、平成29年度795人となっており、目標達成に向けて順調に推移している。 全国的には生産年齢人口が減少している中で、清須市では生産年齢人口の規模を維持しており、これまで子育て環境の充実に注力してきた結果といえる。名古屋大都市圏に位置するという清須市の強みを生かしながら、特に子育て世代にとってより魅力的な環境を整えて、定住を促進することにより、年間出生数を維持に努めていく。			

〔施策の基本的な方向〕

- 健やかな子育てのため、その準備期間である妊娠期から、切れ目のない支援を推進し、出産に対する不安や負担の解消を図り、出産しやすい環境の整備を進める。
- 多様化する保育ニーズや保護者の就労状況の変化に対応し、質の高い保育・教育を提供することにより、子育て支援サービスの充実を図る。
- 子育てに関する情報提供・相談体制の充実や、地域による相互援助を推進するとともに、子育てに対する経済的な負担の軽減を図る。

〔KPIの状況〕

■施策① 安心して妊娠・出産ができるための支援

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
パパママ教室の参加者数	290人 (平成27年)	270人 (平成29年度)	300人 (平成31年度)	C やや目標達成困難
一般不妊治療費助成金の受給者の内、母子健康手帳の交付を受けた者の割合	26.8% (平成26年度)	31.1% (平成29年度)	基準値より増加 (平成31年度)	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策② 子育て支援サービスの充実

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
病児・病後児保育の利用者数	392人 (平成27年)	546人 (平成29年度)	600人 (平成31年度)	B 目標達成に向けて順調に推移
放課後児童クラブの利用者数	75,299人 (平成27年)	102,501人 (平成29年度)	85,000人 (平成31年度)	S 目標以上を達成
放課後子ども教室の利用者数	32,996人 (平成27年)	32,172人 (平成29年度)	36,000人 (平成31年度)	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策③ 育児環境の整備

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
スマートフォン用アプリ及び子育て特設Webサイトの合計アクセス件数	— (平成28年3月に事業開始)	41,941件 (平成29年度)	33,600件 (平成31年度)	S 目標以上を達成
子育て支援センターの利用者数	25,794人 (平成27年)	40,508人 (平成29年度)	30,000人 (平成31年度)	S 目標以上を達成

■施策④ 子育てに対する経済的な支援

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
子ども医療費支給の継続実施	実施中 (平成27年)	継続実施 (平成29年度)	継続実施 (平成31年度)	B 目標達成に向けて順調に推移

基本目標③ シニア世代が元気でアクティブに暮らせるまちをつくる

シニア世代が元気に、その有する高い能力や豊かな経験を生かしてアクティブに暮らせる地域づくりを進める。

〔数値目標の状況〕

数値目標	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
要介護認定率の抑制	15.6% (平成27年末)	15.8% (平成29年度末)	17.5%未満 (平成31年度末)	B 目標達成に向けて順調に推移
数値目標の考え方	「清須市高齢者福祉計画・第6期介護保険事業計画」(平成27~29年度)では、平成32年に要介護認定率が17.5%になると推計しているが、シニア世代が元気でアクティブに暮らせる地域づくりを進めることにより、その抑制を目指す。			
数値目標に対する評価	介護保険制度の改正により、平成29年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始したことに伴い、一部のサービス利用に要支援認定が不要となったこと等により、要介護認定率は概ね横ばいとなっている。 制度改正によって、数値目標の達成は可能と見込まれるが、あくまでも、目標はシニア世代が元気でアクティブな状態をつくることであるため、まずは安心な暮らしのために、「医療・介護・予防・住まい・生活支援」が一体的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築を実現するとともに、シニア世代の活躍の場づくりに努めていく。			

〔施策の基本的な方向〕

- シニア世代の社会参加の促進を図るとともに、活動の場の一つである市内の市民活動団体・ボランティア団体の活性化に向けて、市民協働の更なる推進を図る。
- 高齢者が住み慣れた地域において、生涯現役として暮らしていけるよう、医療・介護等の切れ目のない支援を推進するとともに、高齢者の健康づくりを促進する。

〔KPIの状況〕

■施策① シニア世代の社会参加の促進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
60歳以上の清須マイスターの累計認定者数	— (平成28年度事業開始)	21人 (平成29年度末)	20人 (平成31年度末)	S 目標以上を達成
シルバー人材センターの会員数	442人 (平成27年末)	421人 (平成29年度末)	456人 (平成29年度末)	D 目標達成困難

■施策② 市民協働の推進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
平成28年度中に拠点づくり、市内部の推進体制のあり方の検討	—	平成28、29年度に検討を行った上で、平成30年度から企画政策課内に市民協働係を設置し、取組を推進	平成28年度中に検討	A (概ね)目標を達成

■施策③ 地域包括ケアシステムの構築

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
地域に適合した地域包括ケアシステムの構築	—	平成29年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」を開始するなど、取組を推進	毎年度実施	B 目標達成に向けて順調に推移

■施策④ 官学連携による介護予防・健康づくりの推進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
らく楽運動教室を実施する自主グループ累計数	15グループ (平成27年末)	—	25グループ (平成31年度末)	—
平成29年度から「介護予防・日常生活支援総合事業」が開始したことに伴い、官学連携による高齢者向けの運動教室である「らく楽運動教室」の事業再編を行ったことにより、計画策定時と同様のデータが取れないため、計画策定時と同様の考え方により次のとおり基準値・目標値を設定し、検証を実施する。				
清須市民げんき大学の累計受講者数	—	30人 (平成29年度末)	70人 (平成31年度末)	B 目標達成に向けて順調に推移

基本目標④ 安全・安心で快適に暮らせるまちをつくる

名古屋大都市圏に位置する本市の強みを生かして、安全・安心で快適に暮らせる都市基盤や環境の整備を進める。

〔数値目標の状況〕

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
人口の社会増の継続	社会増 (平成 27 年)	551 人の社会増 (平成 29 年度)	社会増を毎年度 継続 (平成 31 年度)	B 目標達成に向けて 順調に推移
数値目標の考え方	転出や転入等に伴う社会増減数について、本市においては経済動向や社会的な出来事の影響により、年によって大きな変動があることから、平成 27 年の社会増の傾向を、今後も継続させることを目指す。			
数値目標に対する評価	平成 26 年以降、4 年連続で社会増が続いている状況であり、特に平成 29 年には三菱社宅の建設に伴って、転入数が大きく増加している。今後もこの傾向を維持するためには、名古屋市に近接する好条件を生かして、居住地としての魅力の向上に努めていく。			

〔施策の基本的な方向〕

- 平成 12 年 9 月の東海豪雨災害の記憶を風化させることなく、水害に強い安全、安心なまちづくりを進めるため、河川・排水対策の充実を図るとともに、地域防災の担い手の確保に取り組む。
- 公共交通の利便性が高い鉄道駅を中心として魅力的な空間を整備するため、市街地整備等を推進するとともに、だれもが移動しやすいまちの実現に向けて、公共交通の充実を図る。
- 人口減少等による公共施設等の利用需要の変化を踏まえ、公共施設等の最適な配置に向けた検討を進める。

〔KPI の状況〕

■施策① 河川・排水対策の充実

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
公共下水道(雨水)整備の進捗率(整備済延長/事業計画延長)	[二ツ杵幹線] 76.27% (平成 27 年度末見込)	[二ツ杵幹線] 91.41% (平成 29 年度末)	[二ツ杵幹線] 100.00% (平成 31 年度末)	B 目標達成に向けて 順調に推移
雨水ポンプ場の長寿命化(耐震・更新)事業の進捗率(執行済額/基本協定額)	[堀江ポンプ場] 6.07% (平成 27 年度末見込)	[堀江ポンプ場] 20.01% (平成 29 年度末)	[堀江ポンプ場] 27.29% (平成 31 年度末)	B 目標達成に向けて 順調に推移
	[豊田川ポンプ場] 4.82% (平成 27 年度末見込)	[豊田川ポンプ場] 23.97% (平成 29 年度末)	[豊田川ポンプ場] 50.00% (平成 31 年度末)	

■施策② 地域防災の担い手の確保

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
自主防災組織のブロック単位(全 38 ブロック)での設置	36 ブロック (平成 27 年末)	36 ブロック (平成 29 年度末)	38 ブロック (平成 31 年度末)	C やや目標達成 困難
消防団員の定員確保(条例定数 293 人)	283 人 (平成 27 年末)	287 人 (平成 29 年度末)	293 人 (平成 31 年度末)	B 目標達成に向けて 順調に推移

■施策③ 市街地整備等の推進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
土地区画整理事業実施計画に基づく事業の推進	[清洲駅前] 平成 27 年度より着手 [新清洲駅北] 平成 27 年度より着手	[清洲駅前] 仮換地指定、詳細設計など (平成 29 年度末) [新清洲駅北] 建物等移転補償など (平成 29 年度末)	[清洲駅前] 事業の完了 (平成 36 年度末) [新清洲駅北] 仮線跡地整備及び換地処分等を 除く事業の完了 (平成 35 年度末)	B 目標達成に向けて 順調に推移

■施策④ 公共交通の充実

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
「きよすあしがるバス」の 1 便あたりの利用者数	オレンジ 5.0 人 グリーン 4.8 人 サクラ 5.4 人 (平成 27 年)	オレンジ 6.4 人 グリーン 5.8 人 サクラ 6.9 人 (平成 29 年度)	オレンジ 5.6 人 グリーン 5.7 人 サクラ 6.2 人 (平成 31 年度)	S 目標以上を達成
「きよすあしがるバス」の認知度	89% (平成 27 年)	77% (平成 29 年度)	98%以上 (平成 31 年度)	C やや目標達成 困難

■施策⑤ 公共施設等の総合的かつ計画的な管理の推進

KPI	基準値	現状値	目標値	達成度 (S~Dの5段階)
平成 28 年度中に「公共施設等総合管理計画」を策定	—	平成 29 年 3 月 策定	平成 28 年度中に 策定	A (概ね)目標を 達成
平成 32 年度までに「個別施設計画」を策定	—	個別施設の劣化 度調査等を実施	平成 32 年度までに 順次策定	B 目標達成に向けて 順調に推移